

## 「KSTAC 穂高 2016」C 隊 涸沢コース 記録

- 日時 7月28日(木)～7月30日(土)
- メンバー：23M 岩永省吾(L) 23M 山本健二
- 記録：
  - 7月28日(木) 曇り。 一上高地から横尾へー  
小梨平(13:00)→ 明神(13:40～13:55) → 徳沢(14:50～15:00)→横尾(16:00)。  
横尾山荘泊
  - 7月29日(金) 早朝晴れ間 後 曇り。 一横尾から涸沢へー  
横尾(06:05) → 本谷橋(07:15～07:40) → 小休止(08:25～08:35)→小休止(2010m地点)  
(09:30～09:40) → 涸沢小屋分岐(10:30～10:40) → 涸沢ヒュッテ(10:50)。  
昼食後、ザイテングラード方面へ山田邦夫君の7回忌お参り。 涸沢ヒュッテ泊。
  - 7月30日(土) 昨夜より朝6頃まで激しい降雨、後曇り。 一涸沢ヒュッテから上高地へー  
涸沢ヒュッテ(05:20) → 本谷橋(07:05～07:30) → 横尾(08:30～08:45) → 徳沢(09:40～10:30)  
→ 明神(11:20～11:45) → 小梨平(12:20)

## ● 感想(岩永)

体力がないので涸沢まで行けるか？山本さんに迷惑を掛けるのではないか？などの不安を抱えての夏山であった。しかし、2回の低山へのトレーニングが効いたのか、小梨平から横尾までの実働時間はコースタイムよりも早く着いた。次の日、涸沢までは、コースタイムよりは時間がかかり、山本さんに何回も待ってもらったが、何とかたどり着くことができた。本谷橋の少し上で今年の6月左側の屏風岩が壊れて登山道が約100m、折り重なった岩の上を歩くようになっていた。この崩壊の音は、ヒュッテに居る人には飛行機が屏風岩に衝突したかと思うくらいだったとか。ヒュッテで食事をとった後、山田君の遭難現場を見渡せる地点まで登り、お参りをすることができた。今年の涸沢の雪渓はとて小さく雪上訓練などできそうにもないと思われた。ヒュッテに戻り「涸沢フェスティバル」の出し物としてのヒュッテオーナーの山口孝氏による遭難救助に関する講演会を聞くことができた。下山の日はあいにくの雨で、最初の下りは時間がかかったが全体としては時間通りに小梨平に着いた。小梨平のケビンでは台所の水道から熱いお湯が出るようになっていたし、ケビン前のテーブルと椅子が新しくなっていた。

## 感想(山本)

今年の夏山は何処にしようかと思案中に、今年は2010年6月、奥穂高岳からの下山中に亡くなられた山田邦夫君の7回忌にあたることに気が付き、涸沢に行こうと思いついた。半分は体力に自信がなくなった自分に対する言い訳でもあった。しかし如何に涸沢までと言え、単独では行き難く岩永君に相談したところ同行してくれることになった。今回持参したメモ帳には6年前の同じコースタイムが残っておりそれと比べると時間の掛かり方が歴然となり体力の衰えを思い知らされる結果になった。

涸沢では先ず雪の少なさに驚かされ、逆に「涸沢フェスティバル」開催に伴う人の多さにも驚かされた。宿泊場所が従来と異なる涸沢ヒュッテでフェスティバルの中心地だったせいもあった。到着後一休みしてからザイテングラード方面に少し登り、白出の科尔からザイテングラード全体が見渡せる場所に簡単な祭壇を造り持参した線香を焚いて二人でお参りをした。

今回は初めから涸沢までという計画で自分を納得させてはいたが、実際に涸沢で前穂から奥穂、北穂などの稜線を見上げてみると、こんな処で満足していないでもっと上に行ってみたい、行くべきだという想いに駆られたのも事実である。

